

南米パラグアイ国

イグアス移住地入植者の手引

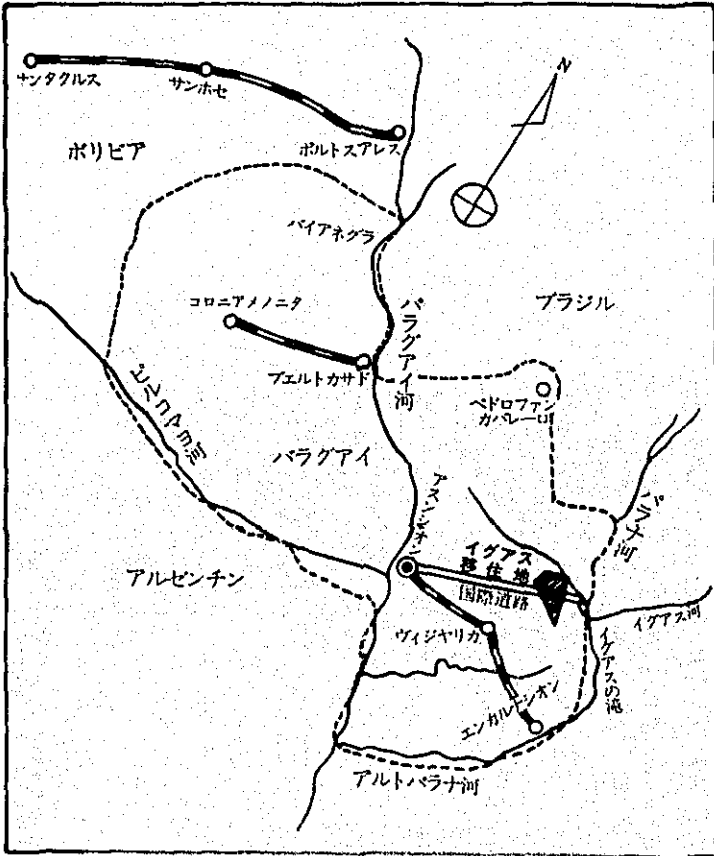


イグアス移住地畜産センター

(1969年1月)

海外移住事業団





<b>国際協力事業団</b>	
受入 月日 84. 9. 13	708
登録No. 14819	23.4
	EM

## は し が き

移住といえばブラジルを思い出すぐらい、ブラジルは日本人移住者の受入国として知られているが、最近ではブラジルのほか、アルゼンチン、ボリビア、中でもパラグアイの名が大きくクローズアップされてきました。

1959年10月に日本とパラグアイとの間に移住協定が発効し、30年間に8万5千人の日本人移住者が受け入れられることになりました。事業団ではパラグアイ東南部のフラム、アルト・パラナ移住地の造成に引き続き、世界一の水量を持つイグアスの滝に近い、国際道路幹線に約8万8千ヘクタールのイグアス移住地を建設、世界的に不足している肉牛を営農の中心とする移住地とし、日本から移住者を送りだしております。

さきに同移住地を視察した岩手県千田知事は東北の他県と一緒に力をあわせて、南米東北村を建設しようという構想を打ち出しました。また元インド大使那須皓博士の立案によるイグアス農牧開発株式会社の出進が予定されており、イグアス移住地の畜産振興上大いに寄与することが期待されます。

パラグアイはすでに約7千人の移住者が入植しています。東南部のエンカルナシオン市を中心とするイタプア県、チャベス、フラム、アルトパラナ移住地を中心とする地帯の営農は、永年作物の油桐を主作物としています。日本から、この地区に榨油会社が出進しました。イグアス移住地には、イタプア県からの転住者などを含め、約150家族がトマト、その他の野菜、豆、とうもろこしなどを主として栽培しており、肉牛、永年作物も次第に増えてきています。

この小冊子は今後パラグアイ国イグアスへ入植しようとする人達の手引書として編集したものです。書き足りない点もありますが、後日の補筆に待ちたいと思います。なお営農の主体である肉牛についてはパラグアイ国イグアス移住者講習用資料——これから牛を飼う人のために——を併せお読み下さるようお願いします。

1969年1月

海外移住事業団

JICA LIBRARY



1028797[7]

## 目 次

第一	パラグアイ国の概観	1
	1. 概 観      2. 自 然      3. 住 民	
	4. 産 業      5. 日本との関係	
第二	イグアス移住地概況	2
	1. 移住地の自然条件	2
	2. イグアス移住地のあらまし	3
	3. どのような社会だろうか	3
	(ア) 附近の移住地や町とのつながり	
	(イ) 交通や通信, 連絡機関等	
	(ウ) 入植の形態や入植者のタイプ	
	(エ) 行政機関	
	(オ) 農業協同組合	
	(カ) パラグアイとのつながり	
	4. 入植した人達はどんな営農や生活をしているだろうか	8
	(ア) 住 居    (イ) 食 事    (ウ) 農家の1日    (エ) 物資の調達	
	(オ) 保健衛生    (カ) 娯 楽    (キ) 教育	
	5. 現地で事業団はどんな仕事をしているのだろうか	8
	(ア) 移住地管理    (イ) 造成工事    (ウ) 融資業務	
	(エ) 授産業務    (オ) 試験指導	
第三	イグアス移住地で営農するには	9
	1. 営農の考え方    2. 資産づくりの農業    3. 有利な自然条件	
	4. 国際商品の生産    5. 営農上の留意点	
第四	移住者の資格条件など	13
第五	現地融資について	14
第六	携行資金はどの位必要だろうか	15
第七	どんな荷物を持っていくべきだろうか	16
第八	通 関	20
第九	入植の経路	21
第十	移住する人の心構え	21

## 第一 バラグアイ国の概観

### 1. 概観

バラグアイ国は南米大陸の中部にある海のない内陸国です。1535年スペインの植民地となり、1811年独立し、1844年に共和国となりました。1864年にはブラジル、アルゼンチン、ウルグアイの3国を相手に5年にわたって戦争をしましたが、悲惨な敗戦により国土及び人的資源を失いました。

更に1870年以來ボリビアとの国境紛争が絶えず1932年のチャコ戦争は3年にも及んで国力は益々衰えましたが、近年平和的な農牧国として再建に努力し、低開発国援助と相俟ち漸次発展しつつあります。

### 2. 自然

海洋への通路は従来アルト・パラナ、バラグアイ両河を経て、ラ・プラタ河を下り、アルゼンチンのブエノス・アイレスに出るより方法がありませんでしたが、最近ブラジルのパラナグア港に通じる国際道路が完成しました。この国際道路は首都アスンシオンより国境の国際大橋まで327kmの距離で、アスンシオンよりエンカルナシオンを結ぶ国道1号線と並んでバラグアイ国の最も重要な道路です。

面積は40万6千km<sup>2</sup>で我が国よりも少し広い位です。

東南部は複雑で変化に富み、原始林の多い丘陵地と平原が交錯してゆるやかな波状形を成しています。

南西部は平原が多く西北部はチャコ地方と呼ばれる大草原があり、北西部は一般に高原で平均高度は300m内外です。

東北部は低湿地が多く沼沢に富んだ大草原とジャングルであります。気候は割合いにはっきりした四季があり、春は9～10月の2カ月、夏は11～3月迄の5カ月、秋は4～5月の2カ月、冬は6～8月の3カ月間であります。年平均気温は24.5°C 冬期は降霜をみる事があります。

### 3. 住民

16世紀半ば、スペイン人がアスンシオン市に植民地を建設して開拓を進めました。開拓者たちは独身者が多く、彼等は進んでこの地方のインディオであるグワラニー族と結婚し混血していきました。

現在においては、この混血がある程度定型化し、それがバラグアイ人の96.5%を占めています。勿論この他に新しく移住してきたヨーロッパ人やその子孫が約2%あり、更にインディオの未開種族も数万人原始的生活を送っているが、黒人は全くおりません。

人口は約210万人で人種的差別はありません。国語はスペイン語でグワラニー語も一般に広く使用されています。

### 4. 産業

農牧国で、国民の75%が農業に従事しています。農産物はタバコ、棉花、とうもろこ

し、小麦、油桐、マテ茶等で、牧畜は牛が最も多く、約550万頭（1人に3頭の割合）で食肉として輸出されています。主な輸出品は木材、タンニン、皮革、牛肉、油脂類等で主な輸入品は繊維、機械類等があります。

## 5. 日本との関係

戦前日本はアルゼンチン公使がパラグアイ公使を兼任していましたが、戦後



アスンシオン市

1956年日本は公使館を設置し更に1961年双方ともこれを大使館に昇格させました。日本とパラグアイとの関係で最も重要なものは移住関係であります。パラグアイは戦前から日本人受入れに開放的であり1936年には、アスンシオンの東南132kmの地点にあるラ・コルメナに数回に分かれて約800名の日本人が移住し現在豊かな移住地として成長しています。

戦後、移住再開後1954年からラ・コルメナに入植したほかに、エンカルナシオン近くの国営チャベス植民地に120家族が入植を始めました。1959年10月には、日パ移住協定が発効し30年間に85,000人の日本人受入が認められました。又同年10月、両国間に380万ドルの造船借款が成立し、1961年には9隻の船舶がパラグアイに引渡されて河川輸送に活躍しています。

1955年からフラム及びチャベス移住地へ600家族が入植し主として桐油、マテ茶を始め棉花、大豆等の栽培に従事しています。

広島県沼隈町、高知県大正町の町ぐるみ移住もこのフラム移住地であります。その他アルトバラナ、イグアス移住地があり、海外移住事業団においては、イグアス移住地へ集団入植できるよう、ロッテの造成の建設を進めております。今後はさらに移住者の増加と日系二世の成長につれてその発展が期待されています。

## 第二 イグアス移住地概況

### 1. 移住地の自然条件

#### ア、位置

パラグアイ国東南部のアルトバラナ県エルナンデリア郡にあり、南緯25°西経55°15'を中心南北に長く国際道路を挟んでほぼ三角形をなし伯国国境までは移住地境界線より33.5kmであります。

#### イ、地形

地域の北端をイグアス河、南端近くをモンダイ河が流れており、何れもバラナ河にそそいでいます。両河川の沿岸部は低地ですが、分譲対象地の大部分は、波状台地となっております。

#### ウ、森林

当地区は約60,000haに及ぶ原生林を有し林内には、数多くの有用樹種の植生があり、これらは原木又は製材加工の上、諸外国に輸出されています。

## エ、雨量

農作物に必要十分な降雨が一般作物の成育期（11月～2月頃）にあり又成熟収穫期（3月～5月）には少ないので降雨状況は良好といえます。只し夏期に一時的に偏在する集中降雨あるいは逆に日中の激しい蒸発量と相まって干魃になることがあります。

## オ、風

強風といわれる種のはごく稀で、ときに降雨前に突風が起る程度で、特殊な作物を除いては風害の恐れは差程ありません。又台風に類するものはなく年間を通じて主に南又は西南の和風、微風です。

## カ、霜

一般に5月上旬より8月下旬迄の4ヶ月間は通算少ない年で5、6日、多い年で10日の霜があり、年により4月下旬の早霜。氷は年1～2回薄氷程度、9月上旬の晩霜があり、思わぬ被害をもたらしたこともあります。

## キ、雹

ときに降雹をみることもありますが、トマト、葉菜以外の作物には殆んど影響はありません。

## 2. イグアス移住地のあらまし

パラグアイの首都アスンシオン市から東へ国際道路を車で5～6時間行くと、そこだけが取り残されたような原生林地帯があります。これがイグアス移住地なのです。

距離にしてアスンシオン市から約280km（東京～豊橋間位）ブラジル国境までは40kmばかりのところ です。

このイグアス移住地87,700ヘクタールは、昭和35年10月購入したもので、直ちに造成工事が始められ、翌昭和36年8月には、フラム、チャベス移住地より第1回入植者家族が入植、現在までに既に150家族余りが入植して、着実に営農を進めております。

この移住地の特色は、何と云っても移住地の真中を東西に30kmにもわたって貫通しているパ伯国際道路の存在でしょう。既に舗装も、両国を結ぶ橋も完成された国際道路沿線地帯は、パラグアイ国の最重点開発地域に指定されており、水力発電、近代都市建設も進められていて、その気候、地味の良さともあまってパ国で最も将来性のある地帯になっています。それだけに近辺移住地の開発速度は著しく、道路沿いに残されたイグアス移住地の原生林地帯は注目の的になっており、1日も早く日本人による開発が望まれています。

## 3. どのような社会だろうか

### ㊦ 附近の移住地や町とのつながり

イグアス移住地は、国際道路に沿った西側にマジョルキン移住地、東側にストロエスネル移住地という国営または準国営の植民地によって狭まれています。これ等の移住地はイグアス移住地より2～3年早く開設され、いずれも満植に近くなっており、その入

植者の殆んどはパラグアイ人です。彼等はマンジョカ（タピオカ）ミス（とうもろこし）タバコ等を主体とするパラグアイ式農業を行なっております。

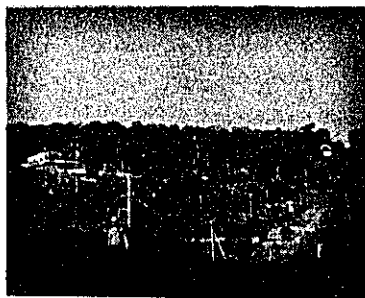
その他ドイツ人、ブラジル人、フランス人の入植もみられ、ストロエスネル移住地には20家族近くの日本人が主としてそ業栽培を行なっています。

イグアス移住地とは別に組合を結成していますが、時々野球試合、運動会等を催し、お互の親睦をはかっています。

ストロエスネル移住地の東側国境地帯には、プレシデンテ、ストロエスネル港湾都市（アエルト・プレシデンテ・ストロエスネルという）が建設されつつあり、モダンなホテル、税関、国際橋、電話局や飛行場、人造湖があります。また、パラグアイ最初の水力発電所や県庁も建設されており、将来はこの地帯に工場も設置される予定です。

その他、ア・ストロエスネル港湾都市と並んで、ブラジル、アルゼンチンへの交通の要所プレシデンテ・フランコ（バスで約1時間）や日常物資の補給源ともなっているブラジル領のフォス・ド・イグアス（バス、船で約1時間半）等があり、また、マジョルキン移住地の西にはカナダ人のメノニータ教徒によるメノニータ移住地があり、製材を中心に養鶏養豚を営んでいます。

- (4) 交通や通信、連絡機関等昭和39年までは国際道路も舗装されていなかったため、雨の時はしばしば交通が途絶しましたが、昭和40年3月、パラグアイで初めての国道全線舗装が完成したので、現在では最も交通に恵まれた地帯となり、特にそ業類の出荷には極めて有利となりました。アスンシオンへのバス便も急行バス1日10回（所要時間約5時間半）普通バス1日約10回（所要時間約8時間）がある外、アスンシオン～サンパウロ（伯国）直行バス便も週3回あります。



（国際道路）

航空便はアスンシオン～アエルト・ア・ストロエスネル間に週に1回ですが、すぐ川向うのフォス・ド・イグアス（伯国）からはアスンシオンへ週2回、サンパウロへは1日2回あります。

イグアス移住地には現在電話はありませんが、電話線は国道沿いに移住地を通過しており、近い将来に市街地に電話局が設置されることになっています。現在、アスンシオンとの連絡はイグアス事業所の無線電信で行なっており、緊急の場合はアエルト・ア・ストロエスネルから電話を利用しています。

郵便類は殆んどが週1回程度のアスンシオン支部～イグアス事業所間の連絡便を利用しています。移住者のものは更にイグアス農協を経由することが多いようです。移住地内での連絡は、徒歩、馬、自転車、モーターバイク、自動車、バス（国道沿線）等まち



まちです。

(ウ) 入植の形態や入植者のタイプ

入植者の殆んどは地区及び国際道路沿線地区に固って入植しています。既入植者家族150余りの中約1割はパラグアイ人で、これは移住地事業許可の附帯条件となっているため、日芭両国民の友好と協調のために混植形態をとっています。

日本人入植者は日本から直接移住入植した人と、現地の分譲をうけて入植した人とに2大別出来、後者は更に分家独立と、再入植とに分けられます。分家独立はフラム、チャベス、アルトパラナの入植者の主として次、三男が、イグアス移住地の立地条件のよさと将来性にひかれて、わざわざ遠く離れたイグアスに分家する場合です。

フラム、チャベス、アルトパラナ移住地の土地を売却してアスンシオン市近郊等でそ業栽培をしていた人が、再びイグアス移住地を購入する場合を再入植と呼んでいます。再入植する理由は分家独立とほぼ同じですが、違う点は、都市近郊での借地によるそ業栽培は、収益は多いけれども営農が不安定であるということを経験した人達であるようです。

このようにいろいろの人が混植していますが、いままでにこれという紛争は起きておらず、それぞれの好みの営農を行なっております。

(エ) 行政機関

パラグアイ国農地法の定めるところにより、必要に応じて移住地に管理事務所、公共サービス機関及び公共事務所を設置しなければなりません。入植開始当初から、それ等全てを設置することは維持管理の点から望めないことで、入植者数とか、入植者の経済力の増加に応じて設置されてゆきます。

設置しなければならないもののうち、既に設置されたのは移住地管理事務所、警察署、学校、診療所で、未設置は郵便局、電信局、税務署、治安裁判所及び戸籍役場、地区委員会です。

その他、義務付けられていないものとして、農協事務所、倉庫、収容所、試験農場、畜産センター、教員宿舎が海外移住事業団の手で建設されています。

これ等の外、パラグアイ国では道路建設及び補修のための賦役（一種の税金）があり、そのためにイグアス移住地でも道路委員会が住民（入植者以外の者も含む）によって設立されています。更に自治的組織として部落会教育委員会、治安委員会があり、それぞれ移住地会社の発展のために活発な働きをしています。

なお戸籍役場、治安裁判所の利用件数は非常に少ないので、プエルト・プレジデンテ・ストロエスネルのものを利用しております。

(オ) 農業協同組合

昭和37年2月、第1次入植者14名によって設立された任意組合のイグアス農業協同組合は、昭和40年10月14日法定組合として認可され、現在組合員は約25名になり、未だ弱体ではあるけれども堅実な運営を続けています。その業務は生産物の販売、生活必需品

の購買、信用事業、事業団貸与物件による運輸事業、製材事業で、一部営農指導も行なっています。その他パラナ農産業協同組合、拓進シヨボイラ農業協同組合がありますが、ゆくゆくは大同団結が必要で、すでに話し合いが進められています。

#### (6) パラグアイ人とのつながり

入植当初の山伐りは、日本人には不慣れな仕事であり、また危険も多いのでパラグアイ人のペオン（人夫）を雇うのが普通です。つまり、入植早々からパラグアイ人との接触が始まる訳ですから、できるだけ早くスペイン語を覚え、またパラグアイ人の気質や習慣を覚えなければなりません。言葉が通じなかったり、相手の気質、習慣を理解しないために紛争がおきるので、わからないときは先輩や事業団職員に通訳や仲介をたのむことです。

大抵のペオンはマジヨルキン移住地等の農民の出稼ぎですが、時々流れ者が来て問題をおこすことがあるので、イグアス警察署長の証明を持たない人夫は雇わないよう指導しています。

一般のパラグアイ人は親切で、日本人に尊敬の念を抱いているのに往往にして日本人がパラグアイ人を見下す態度をとることがありますが、これは絶対慎まねばなりません。パラグアイ人は面子を重じ、また血気盛んな民族ですから、こうしたつまらない事が、大きな事件を起す原因になります。その反面、友達になると実によくしてくれます。パラグアイで“友情が法律に優先する”といわれるのもこの間の事情を物語っています。

### 4. 入植した人達はどんな営農や生活をしているのだろうか

#### (7) 住居

移住地に到着した移住者は約2週間収容所に泊り、その間に自分のロッテ（土地）を決めて仮小屋を作り、それからいよいよ本当に入植するのが普通です。大抵の人は1～3年の間に一応の住居納屋等を作ります。どんなロッテでも原生林であれば建築用材に困ることはまずありません。伐り出した丸太は農協の製材機等で製材してもらい、近所の

人々に手伝ってもらって新しい自分の家を作りあげます。家の周りにはバナナや柑橘や百日草、鶏頭を植えるとすっかり落ち着いた気持ちになります。

#### (8) 食事

パラグアイ人はマンジョカ（タピオカ）を常食にしていますが日本人は矢張り米食をしています。ただしパラグアイは日本より暑いし、開拓は重労働ですから油や肉、大豆、卵、牛乳等を多くとるよう食生活を改善してゆかねばなりません。自家用程度の鶏や豚は放し飼いで結構ですし、畜産をやれば自家消費の牛乳は十分搾し



シェラスコ(焼肉)風景

れます。米は自給している人もありますが、大半は買っています。

パラグアイの酒としてはさとうきびからとるカーニヤという蒸留酒があり、パラグアイのウイスキーと呼ばれる程うまい酒です。

#### (ウ) 農家の1日

東の空が明るくなると主婦はかまどに火をつけます。太い丸太を3本組んで、常々火種のある炉を使って炊事をする家もあります。

その頃NHKの南米向放送がトランジスターラジオから流れます。畑仕事は朝の涼しい間に大方やっておき、夏ならば、1～2時間昼寝するのがパラグアイの習慣です。夏の気温は最高まで上がることがありますが、湿気が少ないため、木陰などにはいと涼しさを感じます。

日が落ちると急に狂間の暑さなど忘れたように気温が下がります。そして空気は澄みわたる、南十字星やその他の星々が、音をたてるかと思う程美しく輝いてみえます。ランプの光で夕食を終えると早や早やと床につきます。夏でも毛布が必要で、この夜の涼しさが1日の疲労を翌朝まですっかりとりさってくれるのです。

#### (エ) 物資の調達

日用雑貨や農具は農協購買部や移住地内の商店で大体入手できます。

日本人が多くなると自然発生的に豆腐屋さんや納豆屋等が生まれます。勿論それは大体主婦のアルバイト程度ですが……。

衣料品と少し沢山買物をするときはブラジル領のフォス・ド・イグアスの町へ出かけられます。買物程度のことならパスポートでも持っておれば査証なしに簡単に隣の国へ渡れるのです。

高級品や特別な品物はアスンシオンまで行かねばなりません。

#### (オ) 保健・衛生

移住地の市街地に診療所があり、日本人医師1名と、看護婦が常駐しており、また車輛も準備しているので、病傷害に対する心配はありません。プレシデンテ・フランコには社会保険病院があり、内科、外科、産婦人科があるが重傷、大手術の場合はアスンシオンまで行くこととなります。

移住地には風土病や赤痢、チフス等の伝染病はなく健康地です。マラリヤ発生可能地といわれていますが、入植者で罹病した人はいませんし、マラリヤ撲滅委員会が巡回し、薬もおいてあるので心配はありません。入植当初はブヨにさされた痒さから掻傷をつくり、化膿させたり、また過労、ビタミンB<sub>1</sub>、不足になることが多いので食生活に留意する必要があります。

川水もきれいですが、矢張り井戸水を使った方がよいでしょう。水質は大変よく、普通10～15mで水が得られます。

(カ) 娯楽

一般に娯楽は乏しく、木も少ないので、楽器、運動具等を用意した方がよいでしょう。

移住地では年に2～3回野球大会や運動会、青年団ではバイレ(ダンスパーティ)等を催しています。その他、時々映画会を行ったり、友達と釣や狩を楽しむ人もいます。昭和41年からは、巡回車が図書、映画等を積んで各地を回ることになっています。

(キ) 教育

6年制公認小学校が市街地に1校、E地区に1校あり、文部省から教師各々2名が派遣されています。勿論スペイン語の授業ですが、日本語教育も週に2回程度課外として行なわれております。

5. 現地で事業団はどんなしごとをしているのだろうか

大きく分けて次の5つの事を行なっています。

(イ) 移住地管理

土地の分譲、森林資源の開発および管理、カンボの賃貸管理、移住地の治安維持、地権の作成、関係官庁との折衝、紛争の調停等を行なっています。

(ロ) 造成工事

ブルドーザー等造成用重機械5台の他、工事用車輛をもちロッテ割り工事、道路橋等の工事をやっています。また長期的工事計画の作成、工事原価の算出等を行ない資料を整えて次期工事の合理化をはかります。なお、パラグアイ国で最初の航空測量を行ない、地形図を作成したので入植者のロッテ選定や営農計画は大いに役立っています。

移住地内のロッテは、間口300m奥行1,000mの30ヘクタールを標準とし、出来る限り河川に接することができるように造成してあります。

道路は有効巾員7米になるよう、10m巾で伐木してありますが、長い間手入れをしないと草木が繁茂し、道路をこわすので、ロッテの開発は道路側から行ない、かつ自分のロッテの前の道路は自分で管理をしなければなりません。

その他、市街地造成や公共施設建設にも協力しています。

(ハ) 融資業務

移住者からの融資申込の受付、相談、貸付、回取期日経過の債権の納入督促や管理、利息等の延滞理由の調査等をも併せ行なっています。

(ニ) 援護業務

入植当初移住者だけの力ではできない学校、診療所、警察署、教員宿舍公共福祉の施設等の建設や、その内容充実のための資料資材の補給、移住地到着の移住者の受入施設の建設及び移住者の世話、助言等をしたり、日本からの医師派遣、教師のあっせん、移住者自治団体の養成指導等を行ないます。

(ホ) 試験指導

未経験な入植者の営農指導や営農相談を行ない、一方試験農場を建設して新しい基幹作

物の発見、改良、試験等を行なうと共にその結果を移住者に発表しているほか、畜産センターを設置し、移住地の畜産振興に寄与しております。



イグアス診療所

### 第三 イグアス移住地で営農するには

#### 1. 営農の考え方

ブラグアイで農業を始めようとするならば、まず日本的な考え方を切換えなければなりません。消費経済の発達した日本から後進国の開拓地へ移住すると、生活が著しく変わるだけでなく農業に対する考え方も異ってきます。そして、その環境に応じた考え方をとることができないと、折角の努力も実を結ばないおそれがあります。以下どんな考え方でイグアスの営農を進めなければいけないかについてのべてみましょう。

#### 2. 資産づくりの農業

日本の農業者は生産したものを販売し、その販売代金で生活をします。現金がなければ一ヶ月も生活できないので、現金をうるために場合によっては出稼ぎもしなければなりません。しかし何十年かを経過した後においてどれだけの資産が増加したと云えるでしょうか。親からゆずりうけた財産を守り子供を育てて行くだけの、いわば農業における月給取で満足できる人は、それでもいいでしょう。しかし、見方によっては、その日その日の生活はたとえ満足できるものであっても、未来に希望のもてる姿ではないといえます。

一方ブラグアイのような後進国では事情は異なってきます。国内市場が缺少で、流通経済の発達が遅れたところでは、日本式の現金収入めあての生産と消費的な生活は難しくなります。

一方ではできるだけ現金が出ないように心掛けながら、永年作物や牛を育て、土地を入手して行く形で資産をふやして行くのがブラグアイの農業であります。消費生活の非常に発達した日本で生活した人から見ると、こうした営農と生活はあまりにもつつまじやかでみじめにすら見えるかもしれません。しかしブラグアイ型営農では10年、20年と年月が経過するにつれて、次第に蓄積されてきた資産は、しらすらすのうちに非常に大きなものになっており、これを基礎にしてスケールの大きい営農が行なわれるようになるのです。

こうしたブラグアイ型営農に適合するには、まず自給体制の確立と消費生活のきりつめをすることが必要であります。このことは、消費的な生活に、馴れた日本人にとって楽な

ことではありません。しかし、同じパラグアイに移住してきたドイツ人移住者の例を見ますと、現金を殆んど支出しない自給的な生活をしながら、豊かな食生活を送っています。果物（オレンジ、ブドウ等）や野菜、肉、牛、乳、チーズ等すべて自分の耕地からとれたもので充分ありあまるほどの生活が送れます。こうした体制をつくるには、入植の当初から自給用果樹を植え、水田をひらき、野菜畑を作り、豚を飼うといった心掛けが必要です。日本人とはかく現金収入をあげることに夢中で、自給体制を作るのが遅れるため、消費面の支出をおさえることができないので、再び現金収入を迫るという悪循環に入り、結局営農の面で差支えが出てくるようになります。

同じ考え方から経営面で云えば、できるだけ雇用労働力を使わず、自家労働力の範囲で営農できるように経営を進めるべきであり自家労働力の範囲をこえた規模まで経営を上げると、粗収入は大きくなりますが、雇用労働力も大きくなる為現金収入を迫る自転車操業がはじまります。経営能力があり、現地人労働者を上手に使う人は、着実に利益を上げていけますが、一般に事情がよく判らない外国のことであり、又日本人の農家には多数の労働者を使うパトロンとしての経営になれていない人が多いため、うまく行かない例も少なくありません。

### 3. 有利な自然条件

イグアス移住地はテーラ・ロシヤ地帯に属しており、その殆んどが原始林におおわれた土地であり、テーラ・ロシヤは暗赤褐色の粘土質の土で、1～5 mに達する深い土層におおわれた、肥沃な土壌であります。開拓にあたっては、通常原始林を伐採し、これを焼いた後に植付けを行います。特殊な場所または作物を除いて肥料を用いることはありません。テーラ・ロシヤ地帯は、ロシアのウクライナの穀倉地帯と並んで、世界でもっとも肥沃な地帯の一つと云われています。

又亜熱帯圏に属するため、一般に気候もよく、雨量も適量であり、農作物の生育状態はきわめてよいのですが、冬期に降霜をみることもあり、又時として旱害があることなどが農業上の難しい点といえましょう。

この肥沃な土地と恵まれた気候の下で一年を通じて働けることは、農業を営む上できわめて有利な条件といえます。この恵まれた条件の下で自給体制をととのえることは、考え方の切り換えさえできれば、さして難しいことではありません。

農業の考え方としては、この有利な自然条件を最大限に利用しながら、後進国が運命づけられた不利な環境条件と対応することを、何時も頭においておく必要があります。

### 4. 国際商品の生産

パラグアイ国は人口わずか210万人で、その多くが農業人口であるため、国内消費は殆んど人口31万人の首都アスンシオン市を中心とする範囲に限られています。消費量もわずかで、従って、一般に自給的な性格の強い農業が行なわれています。一方油桐、マテ茶、棉、タバコ、トーマロコソのような輸出のための農産物も生産されています。一般に農産物の加工業はきわめて発達が遅れ、操棉工場、搾油工場、牛肉の罐詰工場位に限られてい

ます。

従って、イグアス移住地のように大量の入植者が大量の生産をあげる場合には、限られた国内市場を対象とするわけに行かないため、どうしても国際商品を中心に考えるべきです。

このことをよく頭に入れておかないと、国内市場相手の生産物（たとえばトマトやニンジン）を前年に値がよかったからという理由で、多くの人達が作って失敗するという、おきまりのコースをたどるおそれが充分あり、パラグアイでは国内市場が狭いだけに、過剰生産のはねかえりはひどいので、それだけに自分だけ作るのは問題あるまいと考えるのは危険です。

### 5. 営農上の留意点

まず営農は、どんな形で始まるのでしょうか。

入植した場合の移住者は配付された地区の中から、完成時の営農形態を各々の頭に描き、ロッテにもそれぞれ特長があるので自分の描く営農の未来図に最も適したロッテを選定し、ただちに山伐りにかかります。山伐りは技術に慣れがあるので、熟練した現地人に請負わせるのが安全です。山伐り後、時期にもよりますが、大体1～2カ月で山焼き、次いで寄せ焼きを行ない、蒔付の準備をします。最初に蒔付けられるものは、トーマロコシ、大豆等であり、ここから将来の目標に向かって営農の第一歩を踏み出すことになります。

#### (短期作物)

当移住地で栽培している主な短期作物は、棉、大豆、トーマロコシ、稲、マンジョカ、トマト、タマネギ、馬れい薯、雑豆等ですが、栽培上特に留意すべき点は、ア、年によっては遅霜があり、又年によっては旱魃により減収をきたすことがあるので、播種時期等については充分注意する必要があります。

イ、作物によっては病害虫が発生するので、消毒を行なわなければなりません。

ウ、夏期の温度は高く、有機質の分解が早いので、夏期に耕起する場合は深く耕やすことはさげねばなりません。

エ、傾斜地では、土壤侵蝕を起し易いから、等高線栽培等を行ない土壤の保全に努めること。短期作物はあくまで自家労力の消費、永年作物の収入が上がるまでのつなぎである点を考慮し各自が営農計画を樹てる場合は、稼働力等に応じて作付面積を決定しなければなりません。

#### (家畜)

当移住地では、肉牛が営農の基幹になっており、入植と同時に



(放し飼いの牛)

## バラグアイの牛

### ◎ミバラグアイ雑牛、

とりあえず、こんな名前と呼ぶことにするが、昔スペイン人が持ちこんだ牛と、その後、随次導入された牛の雑種。体格は小さいが病気に比較的強いのが特長。

### ◎ジャージー

イギリスのジャージー島原産の牛。同島では1haに対し4頭飼育している。乳用種。

### ◎ホルスタイン

最近バラグアイにおける普及は目ざましく、アスンシオン市近郊の乳牛の90%を占める。日本でもおなじみの牛。

### ◎セブー・ネロール

乾燥、病虫害に強く、また、役牛としても使用される。印度系。こぶが特長であり、南米の雑牛には多少ともセブーの血が入っている。

### ○ブラーマン

セブー系

### ◎サンタゲルトルーディス

現在肉牛として、もっとも有望視されている品種。

### ◎アンガス

現地ではアングーと呼んでいる。角のないのが特長である。わが国へは大正6年1月和牛改良試験のため輸入され、山口県で無角和種をつくりだしている。

### ◎その他

ヘレフォード、ショートホーン(短角)、シャルロレース、ブラウンスイスなどがある。わが国の黒毛和種、褐毛和種等の冷凍精液をバラグアイに持ち込み、肉質を改良することも面白いであろう。



に雌成牛14頭を購入、10年後の保有雌成牛頭数は44頭になる計画を樹てていますが、資金回転の早い豚、鶏等も、加工工場市場の問題が解決された場合積極的に営農に取り入れる事を考える必要があります。鶏等は自給用として、また若干の販売を目的としてとり入れることが望ましいが、大規模な導入は販路を見極めた上で行なわなければなりません。

#### (畜産センター)

日本人は家畜を飼育した経験に乏しいので以前より設置してあるイグアス試験農場に新たに畜産センターを付設し、防疫、経営伝習、草地改良、人工授精サービス等を行なうことによって移住者に不足する知識や技術を補い移住者が一日も早く安定した生活をおくれるよう考慮しています。

#### (永年作物)

柑橘、植林、ブドウ等の植付も行なわれています。

## 第四 移住者の資格条件など

### 1. 何家族位移住できるだろうか

今後の計画総ロッテ数1,680で現在60家族の人をあっせんしています。

その他集団移住地として、東北6県を対象として東北村高知県の物部村はいずれも国際道路の北と南側地帯に計画しています。

### 2. どのような人が移住できるだろうか

永住の意志をもち、豊富な農業経験があり開拓意欲旺盛な人、又一組の夫婦が中心で、原則としてその親子、兄弟で構成された家族。

家族の構成は労働に従事出来る人が3人以上いる事が望ましく夫婦だけの場合は他の条件から(例：資金)おして開拓営農の能力が十分であると判断された場合は移住できます。移住者は又、思想堅実で犯罪がなく家族全員が健康でなくてはなりません。

### 2. 土地代や支払いの条件

土地は事業団より分譲を受け、移住する人は、現地に到着してから事業団の定める範囲内で取得するロッテの選択をすることができます。

ロッテ(1区画)30ヘクタールを標準とし一括払いの場合は400,000円、分括払いの場合は616,000円です。

支払いの条件は一括払の場合は渡航前に事業団に支払っていただき、地券は現地で渡します。分括払の場合は40,000円を頭金として、渡航前に事業団へ支払い残金は9年据置5年均等年賦払で1回分115,200円を事業団現地支部に支払います。なお年賦金は支払当日におけるパラグアイ共和国市中銀行米貨電信売相場によってグアラニー貨で支払うこととなります。

### 4. どのような手続をしたら渡航できるだろうか

移住する人は事業団の都道府県事務所へ相談し備え付けの書類を提出して下さい。

### 5. 渡航費用はどうなっているのだろうか

渡航費は(41年4月1日より)全額補助になりました。日本の乗船港(横浜又は神戸)から、アルゼンチン国ブエノスアイレス港經由パラグアイ国イグアス移住地までの渡航費(荷物運賃を除く)は補助しています。その他支度費と集結旅費の補助金を次のように交付いたしております。

支度費は12歳以上 7,000円 3歳以上12歳未満 3,500円 3歳未満 1,750円。集結旅費は移住者出発地(自宅)より移住センター(神戸、横浜)迄の汽車、船、バス賃等の総額の $\frac{1}{2}$ 以内です。

## 第五 現地融資について

事業団では移住者の皆さんの営農に必要な資金の一部をお貸しする制度を設けております。お貸しするのは営農に必要な設備資金や運転資金でその種類とそれぞれの使途は次のようなものです。

貸付けを受けるためには申込者としても一定の資格条件が必要であり、お貸しする資金についても限度その他の条件もありますが、融資を必要とする際は、実際に必要とする金額、使途等をありのままに申出て当関係員にご相談下さい。

なお、皆さんの信用状態によって、パラグアイ銀行やスペイン銀行等現地金融機関から融資を受けることが可能です。

種 類	資 金 の 使 途
設備資金 および 長期営農資金	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自営農として独立するために必要な土地の購入資金</li> <li>2. 営農拡張に必要な土地の購入資金</li> <li>3. 土地の造成および開墾に必要な資金</li> <li>4. 灌漑、排水施設資金</li> <li>5. 道路造成資金</li> <li>6. 永年作物の植付および管理資金</li> <li>7. 家畜の購入および飼育資金</li> <li>8. 農業用機械、機具購入資金</li> <li>9. 農産加工施設資金</li> <li>10. 交通運搬機具購入資金</li> <li>11. 家屋、農舎、畜舎、車庫、修理場等の建設資金</li> <li>12. その他営農に必要な設備資金および長期運転資金</li> </ol>
短期運転資金	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 短期作物の植付、管理資金</li> <li>2. 作物の収穫資金</li> <li>3. 生産物販売用資材の購入資金</li> <li>4. 農業用機械機具および交通運搬機具の補修資金</li> <li>5. その他営農に必要な短期運転資金</li> </ol>

※このほか、組合その他の移住者の方々の団体に対する融資制度があります。

## 第六 携行資金はどの位必要だろうか

### 1. 土地購入資金

既に説明しました通り、一括払いで購入する場合は一地区40万円、分割払いの場合は頭金として、4万円、渡航前に事業団に支払います。

### 2. 生活資金と営農資金

入植後、最初の現金収入があがるまで、かなりの期間を要しますので、1ヵ年間の生活資金に、175,000～180,000円、更に営農資金及び住宅資金として620,000～625,000円合計最低80万円を現地に携行する必要があります。

### 3. 現地携行荷物運賃及び諸雑費

携行荷物の運賃は、携行荷物1トンにつきプエノスアイレス～エンカルナシオン間、約23,400円、エンカルナシオン～イグアス間25,200円、計48,600円を要しますので、携行荷物の多少により必要経費を準備しなくてはなりません。

更にプエノスアイレスにおける宿泊費やバラグアイに入国の際の入国手続料等の諸雑費が1人当たり約6,000円、その他農協に加入する場合は約6,000円かかります。

### 4. 購入農具代

農具は、第七の携行荷物を熟読のうえ、◎印のものは勿論、出来得れば、発動機等も携行した方がいいでしょう。

### 5. 渡航前後および船中生活に要する費用

家族の構成によって異なりますが5人世帯で12歳以上の者が3人の場合を推定しますと所要経費は概ね41,610円と見こまれます。これは一応の基準であって参考として示します。

ア、申込段階の諸経費	4,240円
戸籍謄本下附料	100円×2通=200
農業従事証明書	40×1=40
健康診断料(診察料、証明料)	500×5人=2,500
写 真	500
県庁(事務所)への連絡旅費	500×2人×1回=1,000
イ、適格決定後の諸経費	4,940
戸籍謄本下附料	100円×2人=200
健康証明料	50×5人=250
国際種痘証明料	150×5人=750円
旅券下附料	120×2人=240
写 真	500
県庁(事務所)への連絡旅費	500×3人×2回=3,000
ウ、移住センター所関係経費	17,450

郷里よりセンター所までの汽車賃	4,500
"          荷物運賃	400円×20個=8,000
荷物梱包料（船積）	120円×10個=1,200
荷物運搬料（船積）	160円×20個=3,200
共済積立金	50円×5人= 250
渡航費貸付契約印紙代	300

（註）写真は現地入植後必要になる場合もありますから3枚位、余分に焼増していく方がよいでしょう。

#### エ、船中雑費

船中においては、ややもすると、無駄な支出をしがちであります。現地へ着いた当初はどうしても出費が多くなりがちなものですから、極力節約することです。

### 第七 どんな荷物を持っていくべきだろうか

携行荷物については、移住者各人の手持資金、希望の内容、現在所有しているものの状況等々により異なるので一概に規定することは出来ませんから、一つの基準として附表を参考にして下さい。

農機具類の購入資金については事業団による現地融資の途がひらかれていますので、入植後當農計画に応じ、これを利用して購入する方法もありますが、自己資金の携行が一番いいでしょう。

日用品、衣料類は、附表にかかげた種類のもは、携行する必要がありますが、手持資金の状況に応じて携行量を調整するといいいです。

◎印は渡航時必ず携行すべきものであり、○印は入植後必ず必要とするものであります。

携行荷物の無貨輸送許容量（ブエノスアイレス港まで）は下記の通りであって、それを超過する場合は超過運賃を支払わねばなりません。超過運賃は1才（1尺立方の容積）につき495円トラック・ジープ・貨物・三輪車・單車については屯当り39ドル（1才351円）です。

大 人	12歳以上のもの	1人につき	60才
小 人	11歳～3歳のもの	"	30才
小 児	2歳～0歳のもの	"	15才

#### 1. 農機具類

ア、現在使用中のものはなるべく携行した方がいいです。

イ、入植後必要な運搬車、シート及び噴霧器は渡航の際、必ず携行すべきものであって、手持のないものは購入して携行することがいいでしょう。

ウ、機械器具類を携行する場合には、部分品や附属工具等は現地では入手困難なものである点で点検し完全にして携行しなければいけません。

エ、製材機、糶摺機、精米機、製粉機等は年間の利用度からして共同で携行した方がよいでしょう。

附表

単位：グララニイ（1グララニイ：約3円）

品名	数量	現地価格 (グララニイ)	入手の 難易	備要
○発動機	1	40,000~45,000	易	出来る限り携行すること4 —6IP分品も用意のこと
○脱粒機	1		易	
○脱穀機	1	40,000	〃	現地製あり
○運搬車	1	10,000	難	現地製なし
◎噴霧器(背負式)	1	30,000~35,000	易	
◎シート	大小1組	3,000~6,000	易	
精米機	4斗		〃	利用度から共同で携行す るとよい
製粉機	3時		〃	
糶摺機	台車付42時10IP		〃	
製材機			〃	
播種機			易	現地製がよい
○ベルト	3, L < 1m		難	
◎腰鋸	1.3, 1.5, 2.0, 2.5, 3.0		〃	現地製なし
◎ソギ		1,400	易	
◎日本鎌	10	西洋鎌 100	難	米、麦刈取用
◎剪定鋏	1	300	〃	
◎グラインダー	1	1,800	易	
◎砥石	荒、中、仕上げ各3	160~300	難	
○有刺鉄線	2巻500m	1,600	易	宅地を開うのに2~3巻携行するとよい。
如露	1	100~300	〃	
◎ヤスリ	4,5,6,7若干	50~80	〃	
巻尺	30m, 1	1,400	〃	又は100米なわ
トタン	8尺40	800	〃	出来れば仮小屋用として携 行した方がよい
◎大工道具	1式		難	工具類は各種のものを多く
鋏力鋏	1		〃	
(釘)2~5時)	16~20kg		易	
◎手押井戸ポンプ	—式		難	深井戸用
◎ビニールパイプ	1.2時15m		難	
ツルハン	1	400	易	
○スコップ	2		〃	牧柵柱穴掘用
(木材移動用 トピロ)	2		〃	木材運搬、焼跡処理
◎揚水ポンプ		20,000	易	
◎ビニールホース	100m		〃	

## 2. 種 苗 類

ア 日本の暖地で出来るものは殆ど現地で作れると考えていいでしょう。特に食生活の豊かな環境を作ることが必要だから、自家用又は試作用としての種苗は自分の好みによって種々携行した方がいいでしょう。但し販売換金用として多量に栽培するものについては、これらの種苗を携行することなく現地で適するものを購入することが望めます。

イ 肥料、農薬は携行の必要はありません。

## 3. 衣 料 類

ア 従来手持のものは、すべて携行した方がいいでしょう。日本着物の新調は無用であり、ボロ類でも役立つから梱包の隅などに入れて持って行く方がいいでしょう。

イ フトン、毛布類は特に必要であり、夜間は夏期であっても寝具を必要とし、冬期はフトンなしで過すことは出来ません。

ウ 作業衣類はなるべく多く携行することが望ましく、開拓初期は「ブヨ」が多いのでシャツ類は長袖が必要です。「ブヨ」等のため乳幼児用の蚊帳を携行すると便利です。

エ 地下足袋、ゴム長靴、下履草履は欠くべからざるものです。

オ 温度の日較差は10～15度位ある時もあり、オーバー・セーター類も役にたつ場合があります。

附 表

品 名	数 量	現 地 価 格 (グアラニイ)	人 手 の 難 易	摘 要
◎フ ト ン 類				使用中のもの全部携行
◎毛 布 類		1,000～3,000	易	1人当り1枚
蚊 帳		ベット用 900	"	日本式のものはない
◎作 業 衣 類	上・下	各 150	"	目の細いものが必要
◎地 下 足 袋			難	1人当り数着(長袖)
◎ゴ ム 長 靴		700		"
雨具類(合羽)				1人当り2足、現地製粗悪
◎子 供 用 ズ ッ ク 靴		150		手持のもの携行
◎下 着 類		80	易	1人当り数足、現地製粗悪
◎女 子 用 作 業 ボ ン		150		" 数着
◎長 袖 シ ャ ッ ツ		150		" "
セーター類		500～1,000		" "
パンツ(男・女)				手持のもの持参、オーバーも同様
ゴ ム 草 履		600		現地製粗悪、大型すぎる
布 地 類				内草履
				作業衣用、下着用を持参すると便利

## 4. 日 用 品

(ウ) 現在使用中のものは現地でも利用できるもので携行した方がいいでしょう。

(イ) 入植当初必要とする若干の食糧品(味噌、醤油、罐詰類、ダン昆布、干魚等)を携行すると便利です。船中の費用を極力節約して魚罐詰、日用品類を買って入植すると非常に役立ちます。

(ロ) カメラ、銃は手持があれば携行する程度で新規購入の必要はありません。トランジスタラジオ(日本よりの短波放送が受信出来るもの)を携行すると非常に便利です。

附表

品名	数量	現地価格 (グアラニイ)	入手の 難易	摘 要
◎飯 釜 類	一 式	24cm 450		釜敷用の鉄輪を忘れないこと ナイフ、スプーン、フォーク、皿 類
◎食 器 類	一 式			
バケツ類	一 式			
懐中電燈	2	160	易	
◎ツルベ滑車及繩	一 式	25m 620		麻繩
◎ゴザ類			難	床敷用、多ければ可
炭火用アイロン	1	450		
飯 盒	2		難	
弁 当 箱	3		"	
散 髪 道 具	一 式	500	易	
洗 面 道 具	一 式		"	
製 麵 機	1		難	手廻、携行すると便
支 那 鍋	一 式		"	調理上極めて便利
鉄 七 輪	1	350	易	
ミ シ ン	1	15,000~20,000	"	
◎風 呂 釜		ドラム罐 500	難	ドラム罐で代用可
樽 類			"	現地製なし、漬物用
自 転 車	1	10,000~20,000		手持つもので可
空 気 入	1		難	
子供用玩具				便箋封筒を含む。紙製品特に高価
子供用学用品				
娯 楽 用 品				
◎書 籍			難	辞書、日本語教科書、古本も持参
トランジスタ ーラジオ	1	8,000~20,000	易	
◎そ ろ ぼ ん	1		難	
車 車	1		易	

### 5. 医薬品類

薬品類は欧州製、アルゼンチン製が容易に入手出来、救急箱程度のものを用意すればいいでしょう。開拓初期の過勞にそなえてビタミン類を用意する必要があります。

附表

品名	数量	現金価格 (クアラニイ)	入手の 難易	摘 要
医薬品 ◎脱脂綿、チリ紙 ◎衛生バンド オムツカバー	一式		易	クレオソート丸大瓶携行のこと 現地製粗悪、日本人向のものなし "

#### 6. 小屋掛資材類

- (ウ) 入植当初の山小屋建設に取り敢えず必要とする資材、釘、針金、カスガイ、蝶番、ゴザ、壁用ビニール生地、テント等は必ず携行しなければいけません。
- (イ) トクンは資金に余裕のあるものは携行すると極めて便利であり、八尺ものがよいでしょう。
- (ウ) 有刺鉄線は家の周囲に張る分を携行し、1町歩当り1,200メートルを携行すると約4～5頭の放牧地を作ることが出来ます。これは必携のものといえましょう。

#### 7. 車輛類

手持の小型トラック等の車輛類は個人携行の場合課税対象となりますから、あらかじめ事業団の承認をうける必要があります。入植後の償却等を考慮して不相当と認められる場合は、事業団名義で無税通関することを事業団として許可しない方針であります。

## 第八 通 関

携行荷物に対する税関検査はブエノスアイレス港下船の際と、パラグアイ国に入国する時(アルゼンチン国ボサードス市及びパラグアイ国エンカルナシオン市)に関係国官吏によって行われます。通関の際に販売を目的として必要以上携行したとみなされる場合過重な税金を課せられます。又新しく貴重なものには課税対象になる場合も多いので携行については細心の注意を必要とします。無税通関した荷物であっても、もしそれを一般人に販売した場合はこれを輸入品として評価し、関税、販売税等その他の税金を課する法律がありますから、販売を意図して携行することはさげなければなりません。

携行荷物はブエノスアイレス上陸後アルゼンチン税関の検査をうけて移住者が直接携行する「携行手荷物」と、アルゼンチン税関の検査をうけずに(重量検査だけを行なう)封印のまま直接貨車で輸送され、エンカルナシオンで初めて検査される「トランシット荷物」とに分けられます。このトランシット荷物は通常移住者より約2週間おくれて到着いたしますので荷物を下記のように分類しておくとう便利です。

#### 1. 携行荷物の内容

- (ウ) ブエノスアイレス市よりエンカルナシオン市まで列車中(約36時間)使用する生活用品、例えば水筒、毛布、洗面用具、雑品等。
- (イ) 入植地の収容所で生活する期間、トランシット荷物が到着するまで、約2週間の間に



必要とするもので、例えば、食糧品（味噌・醤油・罐詰類）、炊事用具（鍋・釜・飯食等）、食品類、寝具（毛布・フuton類）、小農具（鎌・ナタ・鋸等）、作業用品（衣類・地下足袋・ゴム長靴等）、その他生活用品類。

(ウ) ブエノスアイレス通関時、トランジスターラジオ・銃器類・カメラ・貴重品類等は課税対象となり易いので「トランシット荷物」の中に梱包して、手荷物としての携行をさけるべきです。

## 2. トランシット荷物

携行手荷物以外のもので、ブエノスアイレス港で検査だけをうけて内容検査はありません。

## 第九 入植の経路

アルゼンチン国ブエノスアイレス港到着と同時に、事業団ブエノスアイレス支部の指示を受け携行荷物、トランシット荷物の検査通関が行われます。その後でパラグアイ国行の列車を使用しますが、その間、数日間、船または日本人会館に滞留いたします。

ブエノスアイレスよりポサダスまでは列車で約36時間、ポサダスより対岸のエンカルナシオンまでは約4 kmで通常河船で渡ります。エンカルナシオンには約2,000平方メートルの近代建築の収容所があって、ここで入国手続きを済ませ、大型バスにて移住地に向います。

トランシット荷物はエンカルナシオン到着後、所定の手続を経てトラックにて移住地に直送されます。

## 第十 移住する人の心構え

移住の成功、不成功の鍵は、移住適地の選定と同時に、移住する人の心構えいかんによります。適切な自然的、社会的条件と物質の外に移住のための精神（根性）が必要なことは、戦前戦後を通じて移住した人、移住にたずさわった人々が深く体験したことによって明らかな事です。

それではどんな心構えが必要なのでしょう。

### 1. 旺盛な開拓精神をもつこと。

開拓精神とは、苦難に耐え抜く力と、新しいものを開くという創造的意欲と、それをいかに効率的に実現させるかという研究心の綜合されたものだと言えるでしょう。

移住ということ自体、新しい未知なものへ挑むことです。当初の苦勞に耐え抜く覚悟がなければなりません。と同時に自分達の手で新しい村や、新しい営農形態をつくることなのですから、それをどうやってより早くよりうまく実現させるかという研究心が大切になってくるのです。

## 2. 移住についての大きくて新しい考え（移住理念）をもつこと。

移住理念をもつということとは、移住の意義をはっきり掴み、移住の目的を実現しようとするよろこび、意欲をもつこととなります。それはとりもなおさず、その人の生活態度の土台をつくることです。土台のない移住は失敗につながります。では現在の移住はどのように考えるべきでしょうか。

### (1) 自分のやってみたいことがやれ、自分の力を発揮できる場を得ること

日本で食えぬから移住するというのではない。苛酷な自然条件、社会条件に制約されていくら努力しても目的達成が容易ではないこと、例えば大規模な農場や牧畜を国外で力一杯にやってみることができるということです。

### (2) 発展拡大の可能性（夢がある）ということ。

南米特にブラジルには、日本人の目からみれば未開発な分野が多い。それだからこそ日本人の高い技術、経験、知識をもってすれば日本におけるよりもより大きくより確実に伸びられるという夢があります。

このことは自分一代だけではなく、子供達も更に大きく伸びられるという永い目で考えられなければならないものです。特に日本の農山村、寒冷地での経営規模拡大や発展と比較にならぬものも期待できるのではないのでしょうか。

### (3) 人間性に合った生き方をとりもどすこと。

消費は美德だと云う人がいます。しかし高度化された消費生活はかえって人間から人間的な生活を奪っています。消費生活を維持するためには、最早や従来の農林業ではやってゆけず人々は出稼ぎに行きそして半年未亡人をつくり、行先不明の父を生んでいます。これは何よりも大切な家庭生活（夫婦及び親子の生活）をぶちこわすので人権問題だとも云えましょう。移住すれば当初は苦勞はありましょう。しかし夫婦が、親子が共々生活し共に働き共に楽しみたいという人間本来の生活をもう一度自分達の手にとりもどすことは何よりも大きなよろこびではないでしょうか。

### (4) のびのびと生き、広い視野をもつ人間になること。

日本では生存競争が激しく、他人を蹴落す位の気持がなければ伸びられません。そんな血みどろな生き方ではなく、もっとのびのびと、島国根性をすてて、皆と一緒に伸びてゆける社会を作りたいとは思いませんか。また世界の人々と話合え、つき合えるような広い視野をもった人間——国際的な感覚をもてる人間になるうとは考えませんか。広く新しい天地への移住はそうした人間になる第一歩だとは思いませんか。

### (5) この世に生甲斐を感じる事ができるということ。

機械文明が進み、マスコミが発達するにつれて、自分の存在の無力さ、人生の空しさを感じる人が増えていませんか。低開発国での日本人の働きは、直ちにその国の生産量や営農方式や産業に反映します。そして日本人の声価を高めます。そのことは微力ながら自分達日本人の力が、その国の発展に役立っているのだという誇りをもたせてくれます。自分が存在することの意義を、生甲斐を感じる事ができるということは素晴らしい

いことではないでしょうか。

日本人はもっと後進国のために役立つのだという平和部隊的な気持を持ってよいのではないのでしょうか。

(6) 新しいものをつくり出すということ。

広い処女林を伐り開いて新しい村をつくる、従来とは違った新しく大きいスケールの営農をやる。新しい作物の発見開発新しい生き方をしてみる……こうした新しいものを自分達でつくりあげ、やるみるよろこびを持つこと。

(7) 日本人の発展と日本を世界に理解させること。

国外への発展を止めた民族は弱体化するといわれています。そして、世界の人々から理解もされなくなります。自分達の海外移住が日本民族の血潮に活気を与え、外国との交流のかけ橋となり、ひいては日本経済発展の基礎をつくるのだという自覚と誇りをもってよいでしょう。

3. 強い協同、互助の精神をもつこと。

未知の国で、親族もいない処での生活は、お互に助け合い、励まし合ってゆかねば一層淋しく不安なものとなります。また移住当初の不自由さは生産物の販売、日用品の購入等あらゆる面にてできます。したがって協同してゆけば移住地の調和も保たれ、不安感もうすれ、経営も合理的になり、発展の速度もまします。そして更に将来畜産、植林、加工業等の協同事業も可能となってゆき、ますます移住者がそして日本人が発展してゆけるのです。

# 海外移住事業団

東京都新宿区本塩町8の2(住友生命四谷ビル)

電話 (359) 8281 (代表)

